

考古博物館 だより



HP ACCESS

<https://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>
@yamanashi_kouko @yamanashi.kouko1103

No.93

心

を描く

縄文人

令和4年度春季企画展

人面・土偶装飾付土器の世界

令和4年度
イベント予定一覧
掲載号

コラム

- 春季企画展について
- リモート配信のススメ

特集

第19回
わたしたちの研究室

心を描く縄文人

観覧無料

——人面・土偶装飾付土器の世界——

——縄文人から現代人へのメッセージ

縄文土器は、強いメッセージ性を持っています。一見すると意味がわからない複雑な文様ばかりですが、少し丹念に見てみましょう。何か“よくわからない”ものが、その辺りに居たりしませんか？ “顔”は最も分かりやすい導入部分です。“顔”が認知できたということは、他のわからない文様も、何か意味があって配されている——そういう視点で見ると、縄文土器は現在に残された縄文人のメッセージを伝える「メディア」に変わります。登場するのは人だけでなくヘビ・イノシシ・カエルなど様々ですが、距離が離れていて、同じ製作者とは到底思えない土器にも、なぜか似た表現があらわれます。その背景には、少なくとも土器を作った別々の人達が、共通する何かの一場面を想像していたと考えられます。

人気急上昇中の
人面装飾付土器。
出産の様子を表して
いるらしいが…？



メディア登場多数！

2021年出演作

◆TBS 世界ふしぎ発見！

◆テレビ東京 新美の巨人たち

「物語」を語る土器とは——

この様な土器が盛んに作られた縄文時代中期は、人口が増加したことにより社会規模は拡大し、土偶や石棒などの儀礼的な道具も発達するなど、精神的な世界が大きく発達したと考えられます。集団の中で共通する“物語”が語られ、土器にも物語が描かれるようになるのです。これらは、次の世代に世界観や精神世界などの伝えたいことを伝える道具となっていたと思われます。土器を作った彼らも、我々と同じホモ・サピエンス＝サピエンスです。つまり、我々も数千年前を生きた彼らのメッセージを読み解くことができるのではないのでしょうか。今回は、出土した「人面・土偶装飾付土器」と呼ばれる“かお”が付いた土器を通じて、彼らの心の中にある物語に迫ることが展示の目標です。

イロイロな顔の

髪型

似てない？
なんか

特徴的な目

イロイロな特徴をみつけよう

土器の
縁にいる

2022

4.16 SAT 土曜日

6.12 SUN 日曜日



春季企画展 HP はコチラ



開館時間 9時～17時【入館は16時30分まで】



休館日 毎週月曜日【5月2日は開館】

リモート 配信のススメ。



「Youtube 山梨チャンネル」
はコチラからどうぞ！

地 域の文化財の魅力や価値、歴史的背景などを発信・紹介する場として、当館では春・夏・冬の季節ごとに行う企画展（秋は特別展）のほか、毎年さまざまなテーマを設定し、その道の専門家を招いて講座や講演会を開催することにも力を入れています。

昨今は、感染症拡大防止の観点から、一堂に大勢を集めての催しの在り方が見直され、いかに安全に、かつクオリティを下げず多くの方に知的探求の場を提供するかが課題となっていますが、その方法の一環として、リモートでのライブ配信、あるいは大手配信サイトを使っての動画配信などがメインストリームになりつつあります。



専用のスタジオがないので、館内の部屋に機材を持ち込んで講師自ら操作する。

当館でも昨年度から積極的に情報発信のリモート化を進めており、年に複数回開催する考古学講座や館長講座において、オンライン・ミーティングを可能とするアプリケーション「ZOOM」によるライブ配信を導入しました。場合によって対面と配信の同時進行、あるいは配信のみを使い分けることで、感染リスクの軽減をはかっています。

また、これにより時勢や環境にかかわらず企画を遂行できるとともに、普段会場に来られない遠方の方の参加が可能となり、新たな層に裾野を広げられるようになったことは収穫の一つでした。



本棚の隙間という極小スペースですが表に出ない裏方もがんばってます。

一 方で、配信環境にはまだ不安定な部分もあり、音声や画像の乱れ、スクリーン画面の切り替えの不備といったハプニングが見られ、一部参加者からのご指摘を受ける場面もありました。筆者が実際に自宅から配信に参加してみたところ、家で肩の力を抜いて気楽に見たいという方もいれば、できるだけ雑音なく集中して講座に没入したいという方もおり、それぞれの向き合う温度差によって反応が違うという印象を受けました。

その背景には、わざわざ会場に足を運び講師と対面で接するという、ある種の緊張感を共有する場とは違う、より手軽な環境ゆえの価値観の広がりがあり、そこで生じる齟齬（そご）を自覚し、擦り合わせしていくこともまた、より多くの参加者の満足度を上げるためにも必要な議論であると感じます。



講師の自宅や遠方の職場からも配信が可能に。

さて、当館ではZOOMによるライブ配信のほかにも、「Youtube 山梨チャンネル」において、特別展・企画展の内容を要約紹介する動画や、展示の裏側を見せる動画など、家に居ながら博物館に来館した気分を味わえるような動画の投稿を進めています。自由に歩けず、集まれにくいという状況は窮屈なものですが、その分どうすればより楽しめるのか、満足してもらえるのかということ客観的に考え直す契機にもなりました。気兼ねない外出が可能になった時、訪れたい場所の選択肢の一つとして挙げてもらうにはどうすればいいのか？

その答えの一つとして、まずは遠隔（リモート）でも出来ることを模索しつつ、「博物館」という場の敷居を下げ、より気軽に交流できる場を提供していくことが、今わたしたちに問われていることであるように思います。

研究成果展示会

2.12 SAT
土曜日

3.6 SUN
日曜日

「わたしたちの研究室」は、山梨県立考古博物館が主催する小・中学生を対象とした歴史・考古学分野の自由研究コンクールです。今回は感染症再拡大の影響により、2月12日に予定していた表彰式および研究発表会を中止することとなりましたが、その後の「研究成果展示会」については無事開催する運びとなり、賞の有無にかかわらず応募していただいたすべての作品を展示する機会に恵まれました。いずれの研究成果も課外活動などが制限される中での取り組みでありながら、その分創意工夫を凝らし、時に驚かされるほどの行動力と意欲を感じさせる力作揃いで、大変見ごたえのある展示会となりました。本コンクールでは引き続き子どもたちの自由な発想力を活かし、その知的好奇心との向き合い方・伸ばし方について知るきっかけ作りができるよう、幅広く作品を募り紹介していきたいと考えています。



小学校の部

Elementary school Department

最優秀賞【山梨県知事賞】

山梨市立加納岩小学校5年 山口 葵生 さん

「見て歩いて確かめよう！黒曜石の道」

優秀賞【山梨県考古学協会長賞】

山梨市立加納岩小学校5年 三澤 茜 さん

「私の地域のお宝発見プロジェクト⑥」
～古墳・はにわからわかる山梨の古墳時代～

韮崎市立韮崎北東小学校5年 河西 花樹 さん

「韮崎市円野の片隅に」

優良賞【山梨県立考古博物館長賞】

甲斐市立敷島小学校3年 浅川 翔太 さん

「筒粥の行事について」

富士河口湖町立勝山小学校6年 小佐野 大雅 さん

「意外と知らない毎日使っている箸のこと」

都留市立東桂小学校5年 小坂 愛香 さん

「土砂災害を考える」

令和4年度も作品を募集します。

募集期間：2022年9月1日～11月6日



中学校の部

Junior high school Department

最優秀賞【山梨県知事賞】

山梨学院中学校2年 名倉 湧希 さん

「富士山の噴火と火祭りの関わりについて」
～木花咲耶姫神話の謎に迫る～

優秀賞【山梨県考古学協会長賞】

甲州市立塩山中学校2年 加藤 喜佳 さん

「31文字の和歌に込められた思いとは」

甲州市立塩山中学校1年 廣瀬 凌輔 さん

「能麦地区の百万遍祭典」

優良賞【山梨県立考古博物館長賞】

甲州市立塩山中学校1年 雨宮 亜蘭 さん

「絶対に忘れてはいけない甲府空襲」

甲州市立塩山中学校1年 野澤 紀京 さん

「謎多き道祖神について」

山梨市立山梨南中学校1年 金井 勇樹 さん

「信玄堤のしくみを探る」

山梨市立山梨南中学校1年 北野 愛子 さん

「あの日甲府に何が起きた？」

個人研究部門